２・３学年

教育課程(3年間)

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	1	30
		情報科学	1	30
		論理学	1	15
		倫理学	1	15
		法学	1	30
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30
		文学	1	15
		人間関係論	1	15
		社会学	1	30
		外国語Ⅰ	1	30
		外国語Ⅱ	1	30
		スポーツと健康（体育）	1	30
		生活と健康	1	15
	小計		13	315
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体のしくみと働きⅠ	2	60
		人体のしくみと働きⅡ	2	60
		生化学	1	30
		栄養学	1	15
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30
		検査と治療法概説Ⅰ	1	30
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅰ	1	30
		病態と診療Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅲ	1	30
		病態と診療Ⅳ	1	30
		薬理学	1	30
		微生物学	1	30
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30
		社会福祉	1	30
		関係法規	1	30
		総合保健医療論	1	15
		臨床心理学	1	30
		リハビリテーション論	1	30
	小計		21	600
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
		共通技術論Ⅰ	1	30
		共通技術論Ⅱ	1	30
		日常生活援助論Ⅰ	1	30
		日常生活援助論Ⅱ	1	30
		日常生活援助論Ⅲ	1	30
		診療・検査時の援助論	1	30
		治療・処置時の援助論	1	30
		臨床看護総論	1	30
		看護研究方法論	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90
	小計		13	435

区分	教育内容	科　目	単位数	時間数
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		周手術期援助論	1	15
		成人看護援助論Ⅰ	1	30
		成人看護援助論Ⅱ	1	30
		成人看護援助論Ⅲ	1	30
		成人看護技術	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	1	30
		老年看護援助論Ⅰ	1	30
		老年看護援助論Ⅱ	1	15
		老年看護援助論Ⅲ	1	15
	小児看護学	小児看護学概論	1	30
		小児疾患の病態と診療	1	30
		小児看護援助論Ⅰ	1	30
		小児看護援助論Ⅱ	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	1	30
		周産期の診療	1	15
		妊産婦の援助論	1	30
		母と子の援助論	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	1	30
		精神疾患の病態と診療	1	30
		精神看護援助論Ⅰ	1	30
		精神看護援助論Ⅱ	1	15
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90
		成人看護学実習Ⅱ	2	90
		成人看護学実習Ⅲ	2	90
		老年看護学実習Ⅰ	2	90
		老年看護学実習Ⅱ	2	90
		小児看護学実習	2	90
		母性看護学実習	2	90
		精神看護学実習	2	90
	小　計		38	1305
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30
		在宅看護援助論Ⅰ	1	30
		在宅看護援助論Ⅱ	1	15
		在宅看護援助論Ⅲ	1	15
	看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30
		医療安全と災害看護	1	30
		看護技術の統合	1	30
		マネジメントスキルと研究	1	30
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90
		看護の統合と実践	2	90
	小　計		12	390
合　計			97	3045

２　学　年

2022年度教育課程（2学年）

区分	教育内容	科目	単位数	時間数	備考	
基礎分野	科学的思考の基盤	倫理学	1	15		
	小　計		1	15		
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態と診療Ⅳ	1	30		
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30		
		社会福祉	1	30		
		関係法規	1	30		
		総合保健医療論	1	15		
		臨床心理学	1	30		
		リハビリテーション論	1	30		
	小　計		7	195		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護研究方法論	1	30		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	90		
	小　計		3	120		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護技術	1	30		
	老年看護学	老年看護援助論Ⅱ	1	15		
		老年看護援助論Ⅲ	1	15		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		
		小児疾患の病態と診療	1	30		
		小児看護援助論Ⅰ	1	30		
		小児看護援助論Ⅱ	1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		
		周産期の診療	1	15		
		妊産婦の援助論	1	30		
		母と子の援助論	1	30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		
		精神疾患の病態と診療	1	30		
		精神看護援助論Ⅰ	1	30		
		精神看護援助論Ⅱ	1	15		
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90		
		成人看護学実習Ⅲ	2	90		
	小　計		21	660		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30		
		在宅看護援助論Ⅰ	1	30		
		在宅看護援助論Ⅱ	1	15		
		在宅看護援助論Ⅲ	1	15		
	小　計		4	90		
合　計			36	1080		

授業科目	区分・教育内容		
倫理学	基礎分野 科学的思考の基盤		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
鈴木　祐丞	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

医療に関係する場面で現れる倫理的問題（善悪に関わる問題）に向き合う。

授業の目標

生命倫理、医療倫理などにおいて議論される問題をいくつか取り上げ、それぞれについて、知識を整理したうえで、善悪のありかを共に考察する。

授業概要

現代では、生命工学や医療技術の進歩により、かつて存在しなかった倫理的問題が形をとるようになり、医療従事者はそれらに合うことを余儀なくされている。それらについて、看護職者としての倫理原則（自律の尊重など）を念頭に置きながらも、ひとりの人間として自由に、そして深く考えてもらいたい。

授業計画(進め方)

1 回目　授業についての説明／倫理（学）とは何か／骨髄バンクのドナー登録をめぐって（1）
2 回目　骨髄バンクのドナー登録をめぐって（2）
3 回目　（新型）出生前診断と、選択的人工妊娠中絶（1）
4 回目　（新型）出生前診断と、選択的人工妊娠中絶（2）
5 回目　「性別」について（1）
6 回目　「性別」について（2）
7 回目　安楽死・幇助自殺（1）
8 回目　安楽死・幇助自殺（2）

テキスト

レジュメと資料を配布する。

参考書・指定図書

赤林朗編『入門・医療倫理Ⅰ（改訂版）』　勁草書房　2017 年

評価の方法

・出席状況・受講態度など　40%
・小レポート（授業内容を理解した上で、自分の考えを展開できているか）　60%

授業科目	区分・教育内容		
病態と診療Ⅳ（1） 歯・口腔疾患	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
東海林　克	前期	1単位	30時間 （歯・口腔疾患6時間）

授業の目的

歯・口腔疾患の発生原因とその進行過程、疾患の診断をするためのプロセス、そして各病期における治療法の概要と、「口腔ケア」についてその要点に関して理解する。

授業の目標

1. 歯科・口腔疾患に関する基礎的知識を理解する。
2. 日常看護業務で遭遇するであろう歯科・口腔疾患に関する知識を習得し、看護計画立案をする上での基礎とする。
3. 「口腔ケア」に関する基礎的知識と口腔ケアの要点について学習する。

授業概要

歯・口腔疾患は、耳鼻咽喉科や眼科など他の感覚器分野とは異なり、診療報酬体系も医科とは別となることから、大学医学部付属病院、歯科大学付属病院、等の特殊な環境下に所属しない限り、看護経験をすることのない分野である。

世界の先進国の中で類を見ることの無い超高齢社会となった現在の日本では、「口腔ケア」を必要とする要介護者が増えてきている。さらに近年では、がんを始めとした手術や化学療法、放射線治療の期間中における「周術期口腔機能管理」が注目されている。

本講はむし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適正に行うことができるようになることを期待して、上記3項目を主眼においた授業計画を設定した。

授業計画(進め方)

1回目　顎顔面・歯の解剖と歯科疾患
　口腔内の組織の正式名称ならびに、う蝕と歯周病に関して理解する。

2回目　口腔内の診査と治療について①　一般歯科治療総説
　歯科治療による保存修復物や歯冠・欠損補綴物の状態、歯周組織の状況の把握法について（口腔ケア・アセスメントを適正に行うために)。

3回目　口腔内の診査と治療について②　口腔ケアについて
　歯科治療と古典的な歯科疾患以外の顎口腔疾患（過去に看護師国家試験に出題された内容）とアセスメントの仕方を中心とした口腔ケアに関して概説する。

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を用いて、内容を円滑に行うとともに国家試験受験時に要点を再度参照できるようにする。

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目	区分・教育内容		
病態と診療Ⅳ（2） 皮膚疾患	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
	後期	1単位	30時間 （皮膚疾患8時間）

授業の目的

感覚器系疾患（皮膚疾患）の病態・検査・治療について理解する。

授業の目標

1. 皮膚の構造と機能を理解する。
2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。

授業概要

皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。

授業計画（進め方）

1回目　総論：皮膚の構造と機能、症状と病態生理

2回目　疾患の理解（1）
　　湿疹皮膚炎群～角化症（特にアトピー性皮膚炎と尋常性乾癬）

3回目　疾患の理解（2）
　　水疱症～物理・化学的皮膚障害（特に天疱瘡、類天疱瘡、熱傷、褥瘡）

4回目　疾患の理解（3）
　　感染症、母斑・母斑症、腫瘍

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目	区分・教育内容		
病態と診療Ⅳ（3） 眼疾患	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
羽渕　由紀子	中期	1単位	30時間 （眼疾患8時間）

授業の目的

感覚器系疾患（眼疾患）の病態・検査・治療について理解する。
眼科における看護の特長について理解する。

授業の目標

1. 眼の構造と機能を理解する。
2. 眼疾患の病態・検査・治療について理解する。
3. 眼科における看護について理解する。

授業概要

まず看護として知っておきたい眼球とその付属器の構造と機能などを理解し、よくみられる眼症状や眼疾患についても学びます。

視機能障害を持った患者は多大な身体的、精神的苦痛と苦労を強いられます。またその程度や種類もさまざまです。看護師が外来や病棟などで眼科患者と接するにあたり、必要な医学的基礎知識をベースに眼科的看護について学びます。

授業計画（進め方）

1回目　眼の構造と機能、眼症状、眼科検査
　　眼球および付属器、視機能にかかわる部位を理解する。
　　さまざまな眼症状と原因について理解する。
　　眼科で行われる検査（視力検査や視野検査など）について理解する。
2回目　眼疾患の主な治療・処置
　　眼科で行われる処置や治療・手術について理解する。
3回目　眼疾患各論(1)
4回目　眼疾患各論(2)　眼疾患患者の看護

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験
病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目	区分・教育内容		
病態と診療Ⅳ（4） 耳鼻咽喉疾患	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
川嵜　洋平	前期	1単位	30時間 （耳鼻咽喉疾患8時間）

授業の目的

感覚器系疾患（耳鼻咽喉疾患）の病態・検査・治療について理解する。

授業の目標

1. 耳鼻咽喉の構造と機能を理解する。
2. 耳鼻咽喉疾患の病態・検査・治療について理解する。

授業概要

耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかり理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。

授業計画（進め方）

1回目　耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈
　　耳鼻咽喉科の検査と解釈

2回目　咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害

3回目　食道・気管の疾患と音声・言語障害

4回目　耳に現れる症状と病態生理

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験・レポート
病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目	区分・教育内容		
公衆衛生学	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
南園　佐知子　　ロザリン・ヨン	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

健康の保持・増進のために、社会の中でどのような責務を担ってゆく必要があるのか学び、医療従事者として何ができるのかを考える。

授業の目標

1. 健康とは何かを説明できる。疾病予防から健康増進に至る理念について説明できる。
2. 諸外国の健康問題、各年代や性別ごとの日本人の健康問題について概説できる。
3. 健康の保持・増進のために必要な自然環境・社会資源を枚挙することができる。
4. 健康の保持・増進のための主な制度や法律、施策を挙げて、その意義を説明できる。

授業概要

主にスライドを用いて教科書の内容を説明する。

授業計画(進め方)

1回目　公衆衛生と歴史
2回目　公衆衛生の理念・概念
3回目　公衆衛生のものさし
4回目　公衆衛生活動のプロセス
5回目　子どもと保健
6回目　高齢保健
7回目　公衆衛生のシステム
8回目　成人の健康づくり
9回目　歯科保健・難病
10回目　健康危機管理と災害
11回目　感染症
12回目　学校保健
13回目　精神保健
14回目　産業保健
15回目　環境保健

テキスト

ナーシンググラフィカ　健康支援と社会保障②　公衆衛生　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる 2020-2021　メディックメディア（必要に応じて）

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
社会福祉	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
伊藤 雅充　塩谷 行浩　羽川 凌 伊藤 美穂　浅利 俊太郎 成田 和幸　関谷 美紗子	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

現代の生活問題を社会システムとの関連で把握し、社会福祉と医療・介護等の連携の重要性を理解する。

授業の目標

1. 社会福祉が対象とする社会問題を抱えた人々がどのように創出されるのかということを社会システムとの関連で理解する。
2. 社会保障および社会福祉の対象はどのように変化してきたのか、変化しようとしているのかを理解する。
3. 社会問題としての医療問題を理解する。この医療問題を解決する為に医療従事者に何が求められているのかを考える。

授業概要

社会福祉とは、現代社会における生活問題に対し、国民の生存権を保障するための施策である。医療問題を生活問題の重要な課題として把握し、医療を受ける権利を保障するために求められる視点を理解する。

授業計画(進め方)

1回目	現代社会と社会福祉・社会保障	塩　谷
2回目	社会福祉・社会保障とは何か	塩　谷
3回目	社会福祉・社会保障の歴史	伊　藤（雅）
4回目	社会福祉の担い手と役割	伊　藤（雅）
5回目	福祉の実践、資源の活用	浅　利
6回目	地域福祉	成　田
7回目	子ども・家庭と福祉	伊　藤（美）
8回目	障害児・者と福祉、難病対策	塩　谷
9回目	高齢者と福祉	浅　利
10回目	生活保護	伊　藤（雅）
11回目	年金制度	浅　利
12回目	医療保険制度	羽　川
13回目	介護保険制度	関　谷
14回目	雇用保険制度、労災保険制度	成　田
15回目	生活と福祉	成　田

テキスト

ナーシンググラフィカ　健康支援と社会保障③　社会福祉と社会保障　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
関係法規	専門基礎分野 社会保障制度と生活者の健康		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
吉田　皓一	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

看護に必要な法律について理解するとともに、医療人として理解しておきたい医療福祉に関する法律の基礎知識を身につける。

授業の目標

1. 保健師助産師看護師法を通して看護職の役割がわかる。
2. 看護に関連する法規の概要がわかる。

授業概要

看護師がその任務を果たすためには、専門的知識や技術を身につけるだけではなく、我が国の保健医療福祉に関する諸制度を理解し、看護はそこでどのような位置を占め、保健師・助産師・看護師はどのような役割を持っているかを認識する必要がある。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するため、関係法規の理解は欠くことのできないものである。

この授業では、看護に携わる者にとって最も重要な法規である保健師助産師看護師法をはじめ、医事・薬事・公衆衛生、環境衛生などの衛生法規と、看護業務に関連が深い社会保障に関する法規、労働関係法規などについて解説していく。

授業計画(進め方)

1回目　法規の概念
2回目　看護関連の法規
3回目　その他の医療・福祉関係の資格法
4回目　医療法
5回目　薬事法規
6回目　感染症法、健康増進法
7回目　まとめ
8回目　社会保険法規
9回目　保健衛生法規
10回目　福祉関連法規
11回目　労働法
12回目　環境法
13回目　その他の法規
14・15回目　まとめ

テキスト

ナーシンググラフィカ　健康支援と社会保障④　看護をめぐる法と制度　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
総合保健医療論	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小貫　渉	中期	1単位	15時間

授業の目的

1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割と仕組みを理解できる能力を養う。
2. 専門職としての倫理的態度を習得し、医療・看護に関わる本質的問題に対する自己の考えを深める。

授業の目標

1. 保健医療福祉体系の中での看護専門職としての役割と機能がわかる。
2. 医療・看護の質向上を図るための組織や患者の権利を擁護する方法がわかる。
3. 医療経済の基礎を理解する。

授業概要

医療に関する様々な問題点と、社会保障制度について理解を深める。

授業計画(進め方)

1回目　医学・医療の歴史と現代の医療の問題
2回目　生活環境と疾病構造の変化
3回目　医療保険制度と医療供給体制
4回目　社会保障制度における平等とは
5・6回目　医療における患者の権利（インフォームドコンセントについて）
7回目　医療統計について
8回目　試験

テキスト

新体系 看護学全書　専門基礎　現代医療論　メヂカルフレンド社

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験およびレポート

授業科目	区分・教育内容		
臨床心理学	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
半田　温子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

臨床心理学の基礎理論および技法を基盤とした、対象の理解と援助について学ぶ。

授業の目標

1. 臨床心理学の基本的視点について述べることができる。
2. 代表的な人格理論・発達理論を概説できる。
3. 代表的な心理アセスメントの方法や心理療法を列挙できる。

授業概要

テキストを中心に、臨床心理学の基礎概念を学習する。その上で事例を概観し、対象の理解と援助について、臨床心理学的観点から考察する。

授業計画(進め方)

1 回目：臨床心理学の扉を開く－臨床心理学とは－
2 回目：心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (1) 基礎理論について　精神分析理論
3 回目：心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (2) 自己理論　分離-個体化理論
4 回目：心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (3) 対象関係論　心理・社会的発達理論
5 回目：心理援助の基礎を学ぶ－ストレス理論－
6 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (1) 情報の収集と整理
7 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (2) 発達検査　知能検査
8 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (3) 人格検査　その他の心理検査
9 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (4) 心理検査の実際
10 回目：心理援助の実際にふれる －事例に学ぶ問題の理解とかかわり－
11 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (1) 心理療法の基本的態度　クライエント中心療法
12 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (2) 精神分析療法　遊戯療法
13 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (3) 芸術療法　家族療法
14 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (4) 行動療法　認知行動療法
15 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (5) 自律訓練法　　終章「かかわる」ということ

テキスト

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫「心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－」ナカニシヤ出版

参考書・指定図書

川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子　「これからの心の援助」ナカニシヤ出版
熊倉伸宏　「面接法」　新興医学出版社　　他、授業の中で適宜紹介する

評価の方法

出席状況・受講態度、および筆記試験により、総合的に評価する。

授業科目	区分・教育内容		
リハビリテーション論	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小貫　渉　　鈴木　貴博 原田　大河　　大竹　伸行	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

社会復帰を目指す障害者に対する援助の方法を学ぶ。

授業の目標

1. 障害とノーマライゼーションの概念を理解する。
2. リハビリテーションの対象となる疾患・症状を理解する。
3. 病院におけるリハビリテーションについて理解する。

授業概要

障害を持った人々が、社会復帰を目標に治療（リハビリテーション）を進める過程において、医療従事者が行うべき援助と、各専門職の役割について理解を深める。

授業計画(進め方)

1 回目　リハビリテーションとは（総論）
2・3 回目　脳血管障害の病態生理と解剖
4・5 回目　運動障害と高次脳機能障害について
6 回目　嚥下障害について
7～9 回目　理学療法（ＰＴ）について
10～12 回目　作業療法（ＯＴ）について
13～15 回目　言語療法（ＳＴ）について

テキスト

ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
看護研究方法論	専門分野Ⅰ 基礎看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
菅原　晴美	前期	1単位	30時間

授業の目的

看護における研究の意義を理解し、研究に取り組むための基礎知識を身につける。

授業の目標

1. 研究のプロセスを学ぶ。
2. 文献検索の重要性とその方法について学ぶ。
3. 看護研究の方法について、その要点と留意点について学ぶ。
4. ケースレポートをまとめ、行った看護の意味や課題を明確にする。

授業概要

研究のプロセスに沿い、何をどのように計画することで研究可能となるのか、論文をどのようにしてまとめるかを学ぶ。特に、研究や学習を進める上で欠かすことの出来ない文献検索の方法や研究計画書の作成、統計的なデータ分析の方法を、ワークを通して学ぶ。方法論で学んだことは、3年次のマネジメントスキルと研究で個々に取り組む研究計画書の作成に生かしていくことになる。授業全般を通して、「看護学では何のために研究するのか」を考えながら学習してほしい。

また、2年次中期に行う成人看護学実習3サイクル目の、実習での体験をケースレポートとしてまとめ、行った看護の意味や課題を明確にするとともに、適切な文献を検索・活用し、自分の行ったケアを論理的・客観的に振り返る力を身につけ、看護についての自分の考えを述べられるようになって欲しい。

授業計画(進め方)

1回目　看護研究とは何か　研究の概観
　　看護研究のはじめ方
　　リサーチクエスチョンをたてる
2回目　文献レビューとその方法
3回目　文献検索の実際（1）
4回目　文献検索の実際（2）
5回目　研究における倫理的配慮
6回目　研究デザイン（1）
7回目　研究デザイン（2）
8回目　データの収集
9回目　データ分析（1）
10回目　データ分析（2）
11回目　研究計画書
12回目　論文の作成、研究の発表
13回目　ケーススタディ・事例研究・実態調査研究
14回目　文献クリティークの方法
15回目　文献クリティークの実際

■ケースレポートを作成する

取り組み期間：成人看護学実習終了後（11月）～発表会（12月20日）まで

課題：担当教員の指導を受けながら下記の課題に取り組む。

①成人看護学実習3サイクル目の実習での体験をケースレポートにまとめ、行った看護実践の意味や課題を明確にしてみよう。

②発表会でまとめたケースレポートを発表・意見交換することで、自分の看護に対する考えを皆に伝えたり、更に深めたりしよう。

テキスト

系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院

ナーシンググラフィカ　基礎看護学④　看護研究　メディカ出版

佐藤淑子・和田佳代子編著　JJN SPECIAL 看護師のためのWeb検索・文献検索入門　医学書院

参考書・指定図書

講義の中で紹介

評価の方法

筆記試験・ワークレポート70点　　ケースレポート30点（別途評価表に準じる）

授業科目	区分・教育内容		
基礎看護学実習Ⅱ	専門分野Ⅰ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子	前期	2単位	90時間

授業の目的

対象に応じた看護過程を展開する基本的能力を身につける。

授業の目標

1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から把握し、看護の必要性が判断できる。
2. 対象にあった看護計画を立案できる。
3. 計画に基づき看護が実践できる。
4. 実施した援助を評価できる。
5. 看護実践を通じて自己の看護観を養う。

授業概要

本実習では、看護過程用紙を用いて、対象を身体的・精神的・社会的側面から捉え、看護計画の立案および実践・評価の方法を学ぶ。

入院療養中の患者1名を受け持ち、対象との関係を築きながら、対象者の発達段階・生活習慣・背景など収集した情報を分類・分析（アセスメント）する。アセスメント結果を基に、看護上の問題を明らかにし看護目標の設定や個別性を考慮した具体策の立案方法を学ぶと共に立案した看護計画の実施・評価する。実践を通して観察した患者の反応からアセスメントや計画について追加・修正を行う。既習の知識や技術を活かしながら、対象の個別性を捉えた看護過程の展開を目指す。さらに、見学や実践した看護活動を通し自らの看護観を養う機会としてほしい。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。
2. 患者1～2名受け持ち看護過程の展開をする。
3. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。
4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。
5. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。
6. 実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。

テキスト

ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版
竹尾惠子監修　看護技術プラクティス　第4版　学研

参考書・指定図書

山口瑞穂子・関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　第6版　学研
看護がみえる　vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア
看護がみえる　vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる　vol.2　臨床看護技術　第1版　メディックメディア

評価の方法

実習評価表に基づいて評価する

授業科目	区分・教育内容		
成人看護技術	専門分野Ⅱ 成人看護学		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
田安　和　　堀　裕美	前期	1単位	30時間

授業の目的

成人期における看護実践の基礎となる能力を養う。

授業の目標

1. フィジカルアセスメントの方法がわかる。
2. 看護過程のアセスメントの仕方を習得する。看護実践の根拠となる看護計画が立案できる。
3. スタンダードプリコーションの原則に沿って、人体からの真空採血ができる。

授業概要

技術演習においては、「何のために、どのように行い、正常所見はどのようなものであるか」といったフィジカルアセスメントの知識を確認し、フィジカルイグザミネーションの理解を深める。また、人体からの真空採血の技術を習得する。これを通して、技術に自信を持ってほしい。

看護過程の演習においては、成人看護学領域で重要な既習学習の知識を活用しながら、多角的にアセスメントができる基礎能力を養う。知識を活用して科学的な根拠を明らかにし、患者の全体像を描き、看護計画を立案するプロセスを学ぶ。

授業計画（進め方）

1回目　フィジカルアセスメントとは、フィジカルイグザミネーションとは
2回目　看護過程についての課題の取り組み
3～5回目　看護過程演習（グループワーク）
6回目　看護過程演習　交流会
7～8回目　シミュレーションでのフィジカルアセスメント演習
9回目　真空採血のガイダンス
10～11回目　技術演習：真空採血の練習①
12～13回目　技術演習：真空採血の練習②
14～15回目　技術試験：真空採血の実際

テキスト

看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア

参考書・指定図書

山口瑞穂子・関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　学研
ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版
看護技術プラクティス　第4版　学研

評価の方法

技術試験および課題、取り組み態度、提出物、出席状況などを総合して評価する。

授業科目	区分・教育内容		
老年看護援助論Ⅱ	専門分野Ⅱ 老年看護学		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
保坂　るり子	中期	1単位	15時間

授業の目的

加齢に伴い感覚機能低下をきたした高齢者の特徴を理解し、症状に応じたケアの方法と生活支援のための看護を学ぶ。

授業の目標

視機能、聴覚･平衡感覚機能、皮膚機能、口腔機能が低下した高齢者や障害を持つ高齢者の主な症状について理解し生活を支援する看護の方法を学ぶ。

授業概要

加齢により口腔、皮膚や眼・耳・鼻等の感覚機能低下をきたすことは、生活する上で支障となることが多い。また情報量が少ないことは危険の回避ができにくい。加齢による機能低下の状態を理解し、ケアの方法を学ぶ。各分野の主要疾患については、その誘因・特徴を学び、症状に応じた看護を学ぶ。

授業計画（進め方）

1回目　口腔症状に対する看護、義歯のケア、味覚障害のある患者の看護
2回目　耳鼻咽喉領域の患者の特徴と看護、検査に伴う看護
3回目　症状と疾患に対する看護（難聴・メニエール病・アレルギー・慢性副鼻腔炎）
4回目　皮膚の機能と症状の特徴
5回目　疾患（アトピー性皮膚炎・熱傷・帯状疱疹・疥癬）を持つ患者の看護
　　高齢者のスキンケア
6回目　眼疾患患者の特徴と症状（眼痛）に対する看護
7回目　検査（眼底、眼圧）・治療（白内障手術）を受ける患者の看護
8回目　筆記試験

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験：100点

授業科目	区分・教育内容		
老年看護援助論Ⅲ	専門分野Ⅱ 老年看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
田安　和	中期～後期	1単位	15時間

授業の目的

生活の再構築を必要とするような健康状態の人に対する看護の方法を学ぶ。

授業の目標

1. リハビリテーション看護の考え方を学ぶ。
2. リハビリテーションを必要とする人の健康段階に応じた看護を学ぶ。
3. 日常生活行動の再構築を支援する看護援助を学ぶ。
4. リハビリテーションを必要とする人への看護援助の実際を学ぶ。

授業概要

高齢者は、老化の影響や疾患などからこれまでに獲得してきた生活機能が障害に見舞われ、日常生活の自立に支障をきたしやすい状態にある。老年看護は、疾患や障害がありながらもその人らしく生活を営むことができるよう支援することにある。

ここでは、一時的または永続的に、身体的（生理学的）機能や心理的・社会的自立を妨げる何らかの障害を持つ人々とその家族が、人間としての最善の機能を回復または保持し、その人らしい生活の再構築していく過程を支援するための理論と援助方法を学ぶ。

また、リハビリテーション過程の促進を目指した、多職間チームによるアプローチの中での看護師の役割についても学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　リハビリテーション看護とは
　　リハビリテーションに用いられる主要な概念
2回目　リハビリテーションにおける倫理、法律、施策
　　チームアプローチと看護の役割
3～5回目　身体機能のメカニズムとアセスメント　心理・社会的なアセスメントと援助
　　生活の再構築へのアセスメント　　（事例による看護過程の展開）
6回目　発表に向けてのグループワーク
7回目　事例をアセスメントし看護援助を考え発表する　演習
8回目　筆記試験

テキスト

ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学②　健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版

参考書・指定図書

写真でわかるリハビリテーション看護アドバンス　林泰史監修　インターメディカ

評価の方法

課題レポート(30%)、演習レポート(20%)、筆記試験(50%)で評価する

授業科目	区分・教育内容		
小児看護学概論	専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
秋山　祥子	前期	1単位	30時間

授業の目的

変化する社会の中で、子どもの基本的な人権を守り、対象のおかれている状況を的確に判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じた看護を全人的に考えることを学ぶ。

授業の目標

1. 小児看護の対象について身体的・心理的・社会的面から理解できる。
2. 子どもを取り巻く社会環境や健康問題を理解し、看護と関連させて考えられる。
3. 子どもを取り巻く諸制度とその活用が理解できる。
4. 子どもが健康な生活を送るための養育・看護が理解できる。

授業概要

小児看護では「子ども」を理解することがとても重要です。しかし、社会的状況の影響から日常的に子どもと接する機会は少なく子どもの特徴や生活がイメージしにくくなっています。

グループワークを通し、単に成長発達の特徴だけではなく、子どもが健やかに成長発達する権利を有する存在であることを学んでほしいと願っています。

また、子どもの看護ではその「家族」も援助の対象であり、子どもと家族を一つの単位としてみることが大事になります。現代社会の中で子どもと家族が置かれている現状にも目を向け、健康に生活するための小児看護の役割を考えます。そしてこの学習が小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの基盤になることを期待します。

授業計画（進め方）

1回目　小児看護の特徴と理念
2回目　子どもと家族
3回目　子どもの人権と看護（諸統計・子どもの権利・行政施策など）
4回目　子どもの成長発達の原則
　　発育・発達の評価
8・9回目　子どもの栄養
11回目　予防接種
　　学校保健
13回目　子どもと家族を取り巻く諸問題（児童虐待・いじめ・不登校・育児不安など）
5・6・7・10・12・14・15回目　グループワーク
仮題：小児看護学実習で役立つ子どもの成長発達および支援の資料を作ろう❣
※詳細は授業の中でガイダンスする。

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

随時、授業に関係があるものを紹介する。

評価の方法

筆記試験60%　グループワーク（ルーブリックでの評価）40%

授業科目	区分・教育内容		
小児疾患の病態と診療	専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
平山　雅士	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

心身の成長・発達の過程や、その異常と種々の疾患を学び、小児の特性に配慮した各疾患の具体的な看護につなげる。

授業の目標

小児特有の疾患について理解する。

授業概要

小児は成長・発達の時期であり、病態や疾患が成人とは異なる場合が多い。
小児期に多い疾患を取り上げ、考える。

授業計画(進め方)

1回目　成長発達　：　小児の特性としての成長・発達について述べる
2回目　出生前診断　：　遺伝、遺伝子病、胎児病などについて
3回目　新生児　：　病的新生児、低出生体重児について
4回目　内分泌疾患　：　小児期にみられる内分泌疾患(クレチン病、成長ホルモン分泌不全など)について
5回目　免疫　：　免疫の現象と先天性免疫不全症などについて
6回目　感染症　：　小児に多いウイルス性・細菌性感染症について
7回目　呼吸器疾患　：　急性上気道炎や肺炎を中心にのべる
8回目　循環器疾患　：　先天性心疾患を中心に、川崎病、起立性調節障害など
9回目　消化器疾患　：　小児に多い消化器疾患（肥厚性幽門狭窄、腸重積症など）を中心に
10回目　血液疾患　：　血液の成り立ち、貧血など血液疾患を中心に
11回目　腫瘍疾患　：　小児に多い腫瘍性疾患、白血病などを中心に
12回目　泌尿器疾患　：　腎・尿路の働きとその疾患について
13回目　神経・筋疾患：　先天性の神経・筋疾患について
14回目　精神疾患　：　精神の発達とその障害について
15回目　小児救急　：　火傷、溺水、熱中症、誤嚥、誤飲などについて

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
小児看護援助論Ⅰ	専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
秋山　祥子　　佐々木　正吾	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

健康上の問題を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。

授業の目標

1. 健康上の問題を持つ子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。
2. 健康上の問題を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する。
3. 子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。

授業概要

健康上の問題は子どもの成長・発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響をおよぼすのかをとらえ、それらを最小限にするための関わりを学習します。治療・処置は子どもにとっても健康回復のために必要なことです。大人では難なく行われることであっても、子どもの場合は大人とは違う特別なケアが必要になります。グループワークでは、はじめに看護技術の手技や手順を細分化し、そこで子どもがどのような体験をするのかを捉えます。そして大人にはない+αの関りやコミュニケーション方法を加えた看護技術の提供方法を提案していきます。

授業計画（進め方）

1・2回目　健康上の問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響とその看護
3回目　外来受診をする子どもと家族の看護
4回目　検査や処置を受ける子どもと家族の看護
5回目　急性期にある子どもと家族
6回目　慢性期にある子どもと家族
7回目　医療的ケアが必要な子どもと家族の看護
8回目　終末期にある子どもと家族
9回目　手術を受ける子どもと家族の看護
12回目　子どもの救急救命処置
10・11・13・14・15回目　小児看護技術　グループワーク
仮題：子どもの主体性を大事にした小児看護技術
※詳細は授業の中でガイダンスする。

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学　第8版　子どもと家族の示す行動への判断とケア　日総研
山元恵子　写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～　インターメディカ
浅野みどり　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院

評価の方法

筆記試験50%　グループワーク（ルーブリックでの評価）35%　授業時間に提示する課題15%

授業科目	区分・教育内容		
小児看護援助論Ⅱ	専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
秋山　祥子	中期～後期	1単位	30時間

授業の目的

機能障害や症状のある子どもと家族が生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。

授業の目標

1. 機能障害や症状のある子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。
2. 機能障害や症状のある子どもと家族に対する看護援助の要点を理解する。
3. 入院している子どもと家族に必要な看護支援を提案する。

授業概要

子どもは物事の認知や理解、対処能力が発達の途上にあります。また、おとなと比べ生活体験も少ないことから、健康回復に必要なことが恐怖や不安を感じる体験となる可能性もあります。そのため子どもの看護では症状・苦痛の改善を図るとともに、療養での体験がポジティブなものとして残るよう、子どもの持つ力を引き出しながら関わっていくことが大事です。

更に子どもは家族の中の存在であり、子どもの健康障害は家族にも影響を及ぼします。子ども・家族を主体としたケアの理念に基づき、できるだけ早く日常の社会生活に戻れるよう援助する必要があります。

演習では、小児看護学概論・小児看護援助論Ⅰ・小児疾患の病態と診療の学習内容を基盤に、紙上事例を用いたワークを行い、看護実践に必要なアセスメント力や問題解決能力を培います。

授業計画（進め方）

1回目　感染症の子どもの看護
2回目　アレルギー疾患の子どもの看護
3回目　呼吸器疾患の子どもの看護
4回目　循環器疾患の子どもの看護
5回目　消化機能の障害の子どもの看護
6回目　消化機能の障害の子どもの看護
7回目　代謝機能の障害の子どもの看護
8回目　悪性新生物の子どもの看護
9回目　腎・泌尿器疾患の子どもの看護
10回目　治療が必要な新生児と家族の看護
11回目　看護過程演習
12回目　看護過程演習
13回目　看護過程演習
14回目　看護過程演習
15回目　看護過程演習

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学　～子どもと家族の示す行動への判断とケア～　日総研
石黒彩子他　発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　医学書院

評価の方法

筆記試験：70点　看護過程演習：30点　合計100点で評価する。

授業科目	区分・教育内容		
母性看護学概論	専門分野Ⅱ 母性看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子	前期	1単位	30時間

授業の目的

母性に関する概念及び母性看護の対象である母親と子ども及びその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を学ぶ。

授業の目標

1. 母性の基盤となる概念と特徴および人間の性と生殖を理解できる。
2. 現代社会における母性をめぐる課題および思春期・更年期の特徴と健康上の問題がわかる。

授業概要

母性看護の対象や母性とは何かを理解し、その特徴を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護の重要性を感じてほしい。また、母性にかかわる統計と政策、母性を取り巻く社会の現状および課題について学ぶ。授業に際しては、一部 TBL（チーム基盤型学習）とプロジェクト学習を取り入れ進行する。

授業計画(進め方)

1回目　母性看護の基盤となる概念
2・3回目　リプロダクティブヘルスに関する概念（TBL）
4回目　リプロダクティブヘルスに関する動向（TBL）
5回目　少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクトガイダンス（プロジェクト学習）
6回目　リプロダクティブヘルスに関する倫理（TBL）
7回目　リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援（TBL）
8回目　児童虐待と母子関係の課題
9回目　ドメスティック・バイオレンス
10回目　家族計画と受胎調節（TBL をベースとしたグループワーク）
11回目　ライフサイクルからみた思春期の健康と看護・月経異常・性感染症（TBL）
12回目　ライフサイクルからみた更年期の健康と看護（TBL）
13回目　少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト（プロジェクト学習）
14・15回目　プロジェクト学習発表会（プロジェクト学習）

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる　2020－2021　第4版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験 40%，TBL50%（チーム得点＋ピア評価 30%　個人得点 20%）　プロジェクト学習 10 点

授業科目	区分・教育内容		
周産期の診療	専門分野Ⅱ 母性看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小西　祥朝　　三浦　康子	中期～後期	1 単位	15 時間

授業の目的

妊娠・分娩・産褥の生理学的な経過と診断・検査と、起こりやすい異常について理解し、健康を回復させるための方法を学ぶ。さらに新生児の異常について学ぶ。

授業の目標

妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過と異常について理解する。

授業概要

女性は産む性・育む性としての生殖機能を持っている。単に疾患別に捉えるのではなく、産む性である女性の健康と権利の側面からも考えられるようにしたい。

授業計画(進め方)

1～3 回目　正常妊娠・正常分娩

1. 妊娠の成立と経過
2. 正常分娩と産褥期
3. 正常新生児

4～7 回目　異常妊娠・異常分娩

1. ハイリスク妊娠、合併症妊娠
2. 妊娠期の感染症
3. 妊娠期の異常
4. 分娩の異常、産科手術

8 回目　試験

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
妊産婦の援助論	専門分野Ⅱ 母性看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

1. 妊娠期・分娩期の身体的・心理・社会的変化、胎児の成長について理解する。
2. 新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。

授業の目標

1. 妊娠期の母体の変化と心理・社会的特性、胎児の成長発達、ハイリスク妊娠および異常について理解する。
2. 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク状態への看護がわかる。

授業概要

周産期にある女性の身体的・精神的・社会的側面を理解すると共に、各期が正常に経過するために必要な援助、よりよい出産体験への援助の重要性、妊娠各期の対象のセルフケア能力を高めるための援助法について学習する。また、ハイリスク状態にある人々を理解し、その看護について学習する。

授業形態としては、一部に協同学習（TBL）を取り入れ授業を進行する。技術演習を通して妊産婦の看護を実践するために必要な技術の実際を学ぶことで、根拠に基づいた援助技術を身につける。

授業計画(進め方)

1回目　不妊治療と看護
2回目　妊娠の成立・妊娠期の身体的特性　(TBL)
3回目　妊婦と胎児のアセスメント、出産を控えた妊婦と家族の心理と看護
4回目　妊婦健康診査時の看護技術（TBL）
5回目　妊娠と不快症状、妊婦の日常生活とセルフケア（TBL）
6回目　出産と子育ての準備のための看護
7回目　ハイリスク状態にある妊婦・胎児の看護（TBL）
8回目　分娩の経過と胎児の健康状態　～産婦と胎児のアセスメント～（TBL）
9・10回目　分娩の経過と看護　～産婦のニーズ、産婦と家族の心理～
11・12回目　ハイリスク状態にある産婦および胎児の看護
13回目　ペリネイタルロスを経験した産婦や家族の看護
14・15回目　妊婦体験と妊婦健康診査の実際、産痛緩和、胎盤計測　（演習）

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

病気がみえる vol.10　産科　第4版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験、TBL、課題レポートで総合的に評価する。

授業科目	区分・教育内容		
母と子の援助論	専門分野Ⅱ 母性看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

褥婦・新生児の特徴を理解し、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。

授業の目標

1. 産褥期の身体的・心理社会的変化の理解および必要な看護がわかる。
2. 新生児の特徴と生理的変化の理解および必要な看護がわかる。
3. 異常をもつ褥婦・新生児の看護がわかる。

授業概要

シミュレーション課題に取り組み、褥婦の退行性・進行性変化、精神・社会的側面の理解と必要な看護およびセルフケアについて学習する。また、新生児が胎外生活へ適応していく過程を理解し、生理的変化や適応に向けた援助について学習する。さらに、異常をもつ褥婦・新生児の理解およびその看護について学習する。協同学習を取り入れ授業を進行するため、主体的に参加してほしい。

母性看護を実践するために必要な技術（看護過程の展開方法、保健指導技術、沐浴、新生児の諸計測など）の演習によって、根拠に基づいた援助技術を身につける。

授業計画（進め方）

1 回目　産褥経過と看護
2 回目　産褥期の日常生活と看護
3 回目　産褥期の看護技術
4 回目　ハイリスク状態にある褥婦の看護（帝王切開術後を含む）
5 回目　出生直後の看護
6 回目　早期新生児期にある新生児の看護
7 回目　ハイリスク状態にある新生児の看護
8～12 回目　看護過程・保健指導演習
13 回目　保健指導ロールプレイ
14・15 回目　沐浴，新生児身体計測，新生児バイタルサイン測定，育児体験（演習）

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　　メディカ出版

参考書・指定図書

病気がみえる vol. 10　産科　メディクメディア

評価の方法

筆記試験及び課題の提出およびルーブリックに基づき看護過程で 6 割以上を単位修得とする。

授業科目	区分・教育内容		
精神看護学概論	専門分野Ⅱ 精神看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤　聡美	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

精神の発達と健康における諸問題を理解し、精神看護の意義と役割を学ぶ。

授業の目標

1. 精神の発達と機能が理解できる。
2. 社会環境が精神の健康に及ぼす影響が理解できる。
3. 精神保健福祉サービスと法制度について理解できる。

授業概要

精神の健康は環境の影響を受けやすい。この授業では、すべての人々の精神の発達と環境に対する精神の反応を学ぶ。また、精神障害者を取り巻く社会の変化と制度を知ることで、精神看護の意義と役割を学習する。進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。

授業計画(進め方)

1～2 回目	1 章　なぜ精神看護学を学ぶのか（導入）　こころの健康と障害	
3～4 回目	2 章　こころの理解　こころと環境	
5 回目	3 章　人格の発達	
6 回目	4 章　各期の発達課題	
7 回目	5 章　現代社会とこころの問題	※筆記試験① 40 点
8～9 回目	7 章　集団との関係・家族との関係	
10 回目	9 章　倫理と人権	
11 回目	10 章　精神医療の歴史と看護	※筆記試験② 30 点
12～14 回目	11 章　精神保健医療福祉の法制度・地域での生活を支える	
15 回目	リエゾン精神看護	※筆記試験③ 30 点

予定が変更される場合は事前に連絡する。

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

授業内で筆記試験を 3 回行い、その合計点（100 点満点）で評価する。

提出物の遅滞・未提出は減点とする。

授業科目	区分・教育内容		
精神疾患の病態と診療	専門分野Ⅱ 精神看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
沓澤　理 菅原　美紀　　大沢　舞	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

精神疾患について理解し、看護援助のあり方を理解する。

授業の目標

1. 精神疾患の診断と治療方法について理解し、看護援助を展開できる能力を養う。
2. 精神症状のある患者の状態を評価し、看護援助を計画的に施行する能力を養う。

授業概要

最初に主な精神症状と症状の組み合わせによってまとめられる精神状態像の主要なものについて理解してもらう。次に、精神医療で用いられる主な検査、治療法について理解してもらう。

授業計画(進め方)

1～6回目（担当：沓澤）　7回目（担当：大沢）

1. 精神症状の考え方
   精神症状（1）：思考の障害
2. 精神症状（2）：自我意識の障害、感情の障害、意欲・行動の障害、知覚の障害
3. 精神症状（3）：意識障害、知能の障害、記憶の障害、精神状態像、神経症状（巣症状）
4. 神経学的補助検査法
   精神疾患の治療（1）：薬物療法①
5. 精神疾患の治療（2）：薬物療法②
   電気けいれん療法
6. 精神疾患の治療（3）：
   精神療法、行動療法、集団精神療法、家族療法、社会療法
7. 心理検査

授業概要

主な精神疾患について学習し、理解を深める。精神科の各論にあたる。

授業計画(進め方)

1～5回目（担当：沓澤）

1. 統合失調症
2. 気分障害
3. 摂食障害、睡眠障害、てんかん
4. 器質性精神障害（1）：
   認知症、症状精神病
5. 器質性精神障害（2）：
   精神作用物質による精神障害

6～8回目（担当：菅原、大沢）

6. 神経症・心因反応
7. パーソナリティー障害、精神遅滞、心身症
8. 小児期・青年期に発症する行動および精神障害、発達障害

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
精神看護援助論Ⅰ	専門分野Ⅱ 精神看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
吉田　悟　　高階　康子	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

精神障害患者を理解し、精神科における看護技術を習得することにより、適切な看護診断・展開能力を養う。

授業の目標

1. 患者と看護師の関係を理解し、コミュニケーション技術を習得することができる。
2. 症状や疾患に応じた看護師の対応方法が理解できる。
3. 精神科における治療と看護の役割・身体ケアを理解できる。
4. 精神医療におけるリハビリテーションの意味や社会資源について理解できる。

授業概要

患者との相互関係を通して援助関係を確立し、発展させていく能力を身につけることは、看護師にとって重要な課題である。看護の視点、患者との関係を成立・発展させていくために必要な技術について学習する。臨床での事例を紹介しながら、症状・疾患に応じた基本的対応について理解を深める。

授業計画(進め方)

＜1～11回目　担当：吉田＞

1～2回目　精神科看護における対象の理解
・精神科での援助におけるアセスメントの視点　・治療の場の人間関係

3～6回目　精神科看護におけるケアの方法
・「治療的関わり」の考え方　・日常生活行動の援助　・服薬治療に関わる援助

7～9回目　入院環境と治療的アプローチ
・治療の場としての精神科病棟　・治療的環境をととのえる
・精神科病棟でのミーティング：事例から考える　・災害時地域精神保健医療活動

10～11回目　救急医療現場における患者支援と精神的関わり
・自殺企図により救急搬送される患者　・急性薬物中毒で救急搬送される患者

＜12～15回目　担当：高階＞

12～15回目　精神保健活動とリハビリテーション
・精神科リハビリテーションの考え方
・地域精神保健活動における社会資源の活用　・在宅医療と連携

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
精神看護援助論Ⅱ	専門分野Ⅱ 精神看護学		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	後期	1 単位	16 時間

授業の目的

精神看護実践の基本となるコミュニケーション技法について考察し、精神看護計画立案の考え方やレクリエーションの意義について学ぶ。

授業の目標

1. 精神看護学におけるアセスメント・看護計画立案の考え方がわかる。
2. プロセスレコードの記載の仕方がわかる。
3. 精神看護におけるレクリエーションの特徴がわかる。

授業概要

これまで学んできた精神看護学を基盤に、看護実践について学ぶ場としたい。そこで、精神看護学実習で活用することを前提に、アセスメント・看護計画立案の考え方、プロセスレコード記載の演習を行う。また、治療的レクリエーションの意義を学び、そこで果たすべき看護の役割を学ぶ。

授業計画(進め方)

1～3 回目　プロセスレコード
- ・プロセスレコードの意義
- ・演習（ロールプレイからプロセスレコードを記載）
- ・プロセスレコードを用いてグループでカンファレンス

4～5 回目　精神看護学におけるアセスメント・看護計画について
- ・講義で考え方を知り、演習（ペーパーシミュレーション）

6～7 回目　レクリエーション
- ・レクリエーションの意義
- ・演習（企画書の作成）

8 回目　レクリエーションのグループ発表・評価

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版

評価の方法

演習の提出物、授業態度・出席状況などを総合して評価する。
（教員の評価 88 点・学生によるグループ評価 12 点）

授業科目	区分・教育内容		
成人看護学実習Ⅰ	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀　裕美	中期	2単位	90時間

授業の目的

急性期・周手術期にある対象に、状況に即した看護を実践する能力を養う。

授業の目標

1. 急性期・周手術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。
2. 対象の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。
3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
4. チームにおける看護の専門性を理解できる。
5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習では、周手術期・急性期における看護の実際を学ぶ。健康に急激な変化が生じ、身体に大きな侵襲を受け、迅速かつ適切な医療介入を必要とする時期である。身体的苦痛も強く、精神的にも不安を抱きやすい。手術・急性期の医療ではチーム医療を必要とし、安全で迅速な治療および早期回復・苦痛緩和に努める必要がある。チームの一員である看護師も検査の結果からアセスメントし、術後または急性期における患者の全身状態がどのように変動するか予測して、ケアの計画を立てる必要がある。また、術後起こりやすい合併症について、予防と早期発見のための観察、ケアが必要となる。また、術後の離床や安静拡大に伴う安全に配慮した支援の方法を学ぶ。さらに、退院後を見据えたセルフケア支援も重要である。これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解し指導する看護の役割について学ぶ。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 患者を1～2名受け持ち看護過程の展開をする。
3. 日々の状況に即した、観察・アセスメント・実践を行い、評価する。
4. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。
5. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。
6. 実習終了カンファレンスで、学びを交流する。
7. 手術室事前見学を行い、機会があれば受け持ち患者の手術見学をする。

テキスト

ナーシンググラフィカ　成人看護学④　周術期看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学②　健康危機状況／セルフケアの再獲得　メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護③　消化器　メディカ出版
病気がみえる　vol.1　消化器　メディックメディア
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑦　運動器　メディカ出版

参考書・指定図書

山口瑞穂子、関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　学研
中島恵美子、伊藤有美監修　これならわかる！　術前・術後の看護ケア　ナツメ社
山本千恵編著　周術期看護はじめの一歩　照林社

評価の方法

成人看護学実習Ⅰ評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
成人看護学実習Ⅱ	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
高橋　洸太	中期	2単位	90時間

授業の目的

回復期にある対象を総合的に理解し、機能回復および社会復帰に向けた看護を実践する能力を養う。

授業の目標

1. 回復期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。
2. 回復期にある対象の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。
3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
4. チームにおける看護の専門性を理解できる。
5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習は、回復期にある対象の身体的側面だけでなく、これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。対象の健康上の問題を解決するため、看護過程を展開する。回復期にある対象への看護過程を通して、変化した身体機能に合わせた日常生活行動獲得や自己管理へのアプローチ方法を学ぶ。また、機能回復・社会復帰に向けた医療チームアプローチを通して、他職種との連携や看護の専門性について学ぶ。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 可能な限り回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。
3. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。
4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。
5. 1日の実習内容と学びを日々のカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理する。
6. 実習終了カンファレンスで学びを交流する。
7. 回復期にある対象の理解や看護の役割、アプローチ方法等について、テーマカンファレンスで学びを深める。

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護②　循環器　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　健康の回復と看護①　呼吸機能障害/循環機能障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑤　脳・神経　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　健康の回復と看護④ 脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学①　　成人看護学概論　メディカ出版

参考書・指定図書

看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア
病気がみえる vol.2　循環器　第4版　メディックメディア
病気がみえる vol.7　脳・神経　第1版　メディックメディア
山口瑞穂子、関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　学研
ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　看護実践のための援助技術　メディカ出版

評価の方法

成人看護学実習Ⅱ評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
成人看護学実習Ⅲ	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
日野　由樹子	中期	2単位	90時間

授業の目的

慢性疾患をかかえる対象や慢性期・終末期の対象に、病気と共にその人らしく生きることを支える看護を実践する能力を養う。

授業の目標

1. 慢性疾患をかかえる対象や慢性期・終末期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。
2. 対象の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。
3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
4. 慢性疾患をかかえる対象や慢性期・終末期の看護を理解し、チームにおける看護の専門性を理解できる。
5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習は、慢性疾患をかかえる対象や慢性期・終末期の対象に病気と共にその人らしく生活する人の理解を深め、看護の役割について学ぶ。対象の理解は、これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。

慢性疾患は、長期にわたり病気と共に生活しなくてはならないため、患者自身が疾病を理解し、セルフケア行動がとれるように支援する看護の方法について学んで欲しい。終末期は、身体的・精神的苦痛が大きいため、患者がその人らしく、安楽に過ごせるように援助を考え実践する看護の方法を学んで欲しい。健康クリニックの見学実習では、健康な成人に対する健康の保持・増進、疾病の予防にむけたアプローチ方法について理解を深める事ができる。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 患者を1～2名受け持ち看護過程の展開をする。
3. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。
4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。
5. 実習内容と学びはカンファレンスで交流し、学びを深める。
6. 健康クリニックは健診活動の見学や事例を基に生活上の問題を考え、学びを深める。(1日間)。

テキスト

ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤　臨床看護総論　メディカ出版
ナーシンググラフィカ 成人看護学①　成人看護学概論　メディカ出版
ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥　緩和ケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障①　健康と社会・生活　メディカ出版
ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障②　公衆衛生　メディカ出版
公衆衛生がみえる　2020-2021　第4版　メディックメディア

参考書・指定図書

山口瑞穂子、関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　第5版　学研
看護がみえる　vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア
竹尾惠子監修　看護技術プラクティス　第4版　学研
系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院
系統看護学講座　専門Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院

評価の方法

成人看護学実習Ⅲ評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
在宅看護概論	統合分野 在宅看護論		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

在宅で療養する人々とその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を養う。

授業の目標

1. 在宅看護の目的と基本理念が理解できる。
2. 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。
3. 在宅ケアを支える制度や社会資源を学ぶ。

授業概要

在宅看護の対象は年齢別、疾患別、症状別という枠組みを超えて、生活の場で療養しているすべての人々とその家族である。在宅看護の対象者の特性を知り、在宅における看護師の基本姿勢、倫理、安全管理等について学習する。在宅看護は保健医療の仕組みや制度等が深く関わっているため、これまで学生の皆さんがすでに学んでいる講義等と結びつけながら理解してほしい。

授業計画（進め方）

1 回目　在宅看護の概念①－在宅看護とは－
2 回目　在宅看護の概念②－地域療養を支える在宅看護の機能・役割－
3 回目　在宅看護の対象者
4・5 回目　家族とは
6 回目　地域療養を支える制度－医療法と介護保険－
7 回目　地域療養を支える制度－社会資源の活用（グループワーク）－
8 回目　社会資源の活用（グループ発表）
9 回目　地域療養を支える制度－権利擁護・高齢者施策－
10・11 回目　訪問看護とは
12 回目　訪問看護ステーションパンフレット作成
13 回目　訪問看護ステーションパンフレット発表
14・15 回目　在宅看護における安全と健康危機管理

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
公衆衛生がみえる 2020-2021　第 4 版　メディックメディア

指定図書・参考書

国民衛生の動向　2021/2022　一般財団法人厚生労働統計協会

評価の方法

筆記試験　60%、課題レポート（個人）　30%、課題レポート（グループワーク）10%

授業科目	区分・教育内容		
在宅看護援助論Ⅰ	統合分野 在宅看護論		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

在宅で健康障害を抱えた人々とその家族への看護展開の方法を学ぶ。

授業の目標

1. 地域包括ケアシステムの概要を理解し、多職種連携や看護職が果たす役割と機能を学ぶ。
2. ケアマネジメントの概要を理解し、ケアマネジメントの過程と看護師が担う必要性を学ぶ。
3. 在宅看護過程のポイントを理解し、その展開方法を学ぶ。
4. 事例を通し、在宅看護展開の実際が理解できる。

授業概要

地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割や在宅生活におけるケアマネジメント、多職種との連携を理解し、健康障害を抱えた人々が「健康でその人らしい生活」を維持していくために必要な在宅看護の展開方法を学ぶ。

授業計画（進め方）

1 回目　地域包括ケアシステムにおける在宅看護①　地域包括ケアシステムとは
2 回目　地域包括ケアシステムにおける在宅看護②　療養の場の移行に伴う看護、多職種連携
3 回目　地域包括ケアシステムにおける在宅看護③　在宅看護におけるケアマネジメント
4 回目　訪問看護過程－訪問看護の事例から学ぶ－
療養者の全体像を理解する－ICF 思考－
＊5～10 回目は、事例別（回復期・認知症）看護過程の展開　（グループワーク）
5・6 回目　療養者の全体像を理解する
7 回目　ICF 思考による情報整理・分析シート（発表）
8・9 回目　関連図作成　短期目標の設定
10 回目　看護計画立案
11 回目　要介護（回復期）高齢者の療養者への在宅看護
12 回目　認知症療養者への在宅看護
13 回目　ターミナル期療養者への在宅看護
14 回目　難病療養者への在宅看護
15 回目　慢性期の療養者への在宅看護（糖尿病）

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

指定図書・参考書

公衆衛生がみえる 2020-2021　第 4 版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験 60%、課題レポート・グループワーク 40%

授業科目	区分・教育内容		
在宅看護援助論Ⅱ	統合分野 在宅看護論		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
保坂　るり子　　八代　美千子	中期	1単位	15時間

授業の目的

在宅で行われている医療技術を学び、療養者・家族への生活支援の実際を理解する。

授業の目標

1. 医療管理を必要としている在宅療養者の特徴を理解する。
2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた医療管理、予防的な支援の方法を理解する。
3. 療養者・家族への知識・技術の取得の指導・教育の援助ができる。

授業概要

在宅看護は、地域で療養する人々が「望む生活」を維持するために、社会資源を用いながら生活の場において看護を提供し、「自立支援」していくことである。在宅医療の整備に伴い多様な療養スタイルが認められ、高度な看護技術の提供を必要とする対象者が増加した。ここでは地域で療養する方の自立支援のための、基礎看護技術・臨床看護技術を応用した在宅医療技術を学ぶ。

授業計画（進め方）

1回目　フィジカルアセスメント（演習）
2回目　在宅での栄養管理
　　－在宅中心静脈栄養法と経管栄養法－
3回目　膀胱留置カテーテルの管理
　　－家族指導パンフレット作成－（グループワーク）
4回目　ストーマケア
5回目　褥創の予防とケア
　　－褥瘡対策に関する看護計画書と家族指導－（演習）
　　} 保坂

6回目　在宅人工呼吸療法
7回目　在宅酸素療法
　　} 八代

8回目　試験

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

参考書・指定図書

角田直枝編集　よくわかる在宅看護　学研

評価の方法

保坂担当70%（筆記試験60%、課題レポート10%）　八代担当30%　筆記試験

授業科目	区分・教育内容		
在宅看護援助論Ⅲ	統合分野 在宅看護論		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

在宅療養者・家族が「健康でその人らしい生活」を維持していくために必要な日常生活支援技術を学ぶ。

授業の目標

1. 日常生活支援の実際を学び、看護技術の応用、家族への相談指導技術が理解できる。
2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。
3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援方法を検討できる。

授業概要

在宅療養者の日常生活の支援は、療養者と家族が生活することを支える。「健康でその人らしい生活」が継続できるように、療養者と家族の生活に合わせた工夫をしながら、環境を整えることが重要である。ここでは、これまで学んできた看護の知識と技術を応用させた日常生活支援技術について学び、在宅看護の実践に結び付ける。

授業計画（進め方）

1 回目　在宅における日常生活支援技術（食事）
2 回目　在宅における日常生活支援技術（清潔・移動）
3 回目　在宅における日常生活支援技術（排泄）
4・5 回目　在宅における日常生活支援の実際と福祉用具体験（演習）
6 回目　訪問看護ロールプレイ演習　グループワーク（シナリオ作成）
7・8 回目　訪問看護ロールプレイ演習（グループ発表）

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

指定図書・参考書

評価の方法

課題レポート 個人課題 70%、グループ課題 30%

３　学　年

2022年度教育課程（3学年）

区分	教育内容	科目	単位数	時間数	備考	
基礎分野	科学的思考の基盤	法学	1	30		
	人間と生活、社会の理解	外国語Ⅱ	1	30		
	小　計		2	60		
専門分野Ⅱ	臨地実習	老年看護学実習Ⅰ	2	90		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90		
		小児看護学実習	2	90		
		母性看護学実習	2	90		
		精神看護学実習	2	90		
	小　計		10	450		
統合分野	看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30		
		医療安全と災害看護	1	30		
		看護技術の統合	1	30		
		マネジメントスキルと研究	1	30		
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90		
		看護の統合と実践実習	2	90		
	小　計		8	300		
合　計			20	810		

授業科目	区分・教育内容		
法学	基礎分野 科学的思考の基盤		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　修一	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

これから法学を学ぼうとする受講生に、実質社会において法の役割分担を、入門的な理解を通じて法的な考え方に慣れるように説明する。

授業の目標

社会において、法と日常生活がどのような形で関わっているのかが、わかり易くなる。

授業概要

法学の授業では、皆さんの日常生活と法とがどのように結びついているのかを認識してもらうことに重きを置き、身近な事例から法の解説を行います。ここでは、従来のような法学の教科書のようなテーマごとに関係するものを全て、何でもかんでも詰め込んで教えるものではありません。社会人となった時、①気づくこと、②調べること、③考えることを法学を通じて身につけていただきたい。

授業計画(進め方)

1 回目　法とは何か
2 回目　法と他の社会規範
3 回目　法の解釈・適用について
4・5 回目　法の最高規範である憲法について
6 回目　恋愛と法（民法・契約法）
7 回目　初めての就職（労働法・社会契約・ブラック企業・パワハラ）
8 回目　ライフスタイルの選択（社会保障・少子高齢化）
9・10 回目　お金にまつわる問題（クレジットカード・連帯保証・多重債務等）
11 回目　人生の落とし穴（裁判の手続き・参審制）
12・13 回目　老後の生活のリスク（年金・介護保険・認知症等）
14・15 回目　財産の行え（遺言・相続・後見人制度）

テキスト

末川博編　法学入門　有斐閣

参考書・指定図書

授業の時に説明する。

評価の方法

小テスト、授業態度、期末試験等で総合評価する。

授業科目	区分・教育内容		
外国語Ⅱ	基礎分野 人間と生活・社会の理解		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大西　洋一	前期	1単位	30時間

授業の目的

国際化が進む日本の医療機関において、看護師として将来活用しうる英語能力の基礎を養う。

授業の目標

1. 医療に関する基本的な英文を正確に理解できる。
2. 医療現場における基本的な英会話表現を使用できる。
3. 医療従事者として学ぶべき、基本的な英語の専門用語を理解できる。

授業概要

この授業では、医療分野の専門用語を体系的に解説しながら、医療現場において使用される基本的な英文や会話表現に関する演習を行う。

授業計画(進め方)

各回の授業においては、以下に示された教科書の各ユニットのテーマに関する英語の口語表現及び医療専門用語の理解を目的として演習を行う。

1回目 Is this your first visit to this hospital?
2回目 What's the matter?
3回目 You need to see a Dermatologist.
4回目 Let me direct you to Radiology
5回目 Let's check your height and weight.
6回目 I need to ask you some questions.
7回目 Can you describe the pain?
8回目 Rest your arm on the armrest.
9回目 Please make a follow-up appointment.
10回目 Take this medicine after meals.
11回目 Your operation will be this afternoon.
12回目 Are you feeling more comfortable now?
13回目 This is an emergency.
14回目 Tests show you have high sugar levels.
15回目 You'll be leaving us soon.

テキスト

山中マーガレット（Margaret Yamanaka）『看護系学生のための実践英語（*English for Nurses*）［改訂版］』（朝日出版社，2021年）

参考書・指定図書

特に指定しないが、受講の際には英和辞典（電子辞書でも紙辞書でも可）を持参すること

評価の方法

各回の授業におけるワークシートと、その学習のまとめとしての期末テストによって評価する。

授業科目	区分・教育内容		
老年看護学実習Ⅰ	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	前期～中期	2単位	90時間

授業の目的

老年期にある人の療養生活を支え、生きがい・QOL向上を目指した看護を実践できる能力を養う。

授業の目標

1. 加齢による変化や健康課題を持ちつつ生きる、老年期にある人の特徴が理解できる。
2. 老年期にある人の特徴をふまえ、看護を展開できる。
3. 老年期にある対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
4. 老年期にある人に関する法規や制度・保健・医療・福祉機関を理解し、老年看護の役割について理解できる。
5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習では加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を理解し、老年期にある人に特有な症候・疾患・看護について学ぶ。また、老年期にある人が生きがいを大切にし、日々の生活が少しでも豊かになるように生活を整える技術、健康生活を支援する方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習をすすめてほしい。

また、チーム医療および多職種との協働のあり方について学ぶことができる。高齢者の日常生活が滞らないように専門職がチームを組み、活動する実際を学ぶことができる。疾病と付き合いながら地域で生活することになる患者に対し、病院・施設・訪問看護・家族がどのように連携すべきか学んで欲しい。

本実習は、3年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。

授業計画(進め方)

中通総合病院　7階病棟と血液浄化療法室で実習を行う。

1. 透析室実習：臨床講義や透析患者とのコミュニケーションを通し、血液透析の原理・方法・看護および社会資源の活用の実際を学ぶ。
   「透析療法を受ける患者がその人らしく生活するために必要な看護支援」
   をテーマにテーマカンファレンスを行う。
2. 病棟実習　：患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。
   各健康レベルの老年期にある患者の看護、チーム医療および多職種との協働のあり方について学ぶ。
   基礎看護技術の経験を積むことによって、自信を持って実践できる技術を増やす。

テキスト

ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版

ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

小林洋史　透析ハンドブック　医学書院

評価の方法

実習評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
老年看護学実習Ⅱ	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
田安　和	前期～中期	2 単位	90 時間

授業の目的

老年期にある対象を総合的に理解し、生活の維持・向上に向けての看護を実践できる能力を養う。

授業の目標

1. 対象の生活背景を捉え、身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握することができる。
2. 対象の生活機能の維持・向上に向け、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。
3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
4. 医療チームにおける看護の専門性を理解できる。
5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習は老年期の患者を受け持ち、科学的根拠に基づいて必要な看護を実践できる基礎能力(知識・技術・態度)を養う総合的な学習である。加齢や疾患による機能低下が日常生活にどのような影響をもたらすのかを捉え、患者の強み、願いを考慮した目標を設定し、セルフケアの自立に向けた支援の方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習を進めて欲しい。本実習では、3 年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。

授業計画（進め方）

中通リハビリテーション病院　4 階病棟(回復期病棟)にて実習を行う。

1. 患者を 1 名受け持ち、老年期にある患者の個別性を考慮した看護過程を展開し実践する。
2. 見学や実践を通し、老年期にある患者の日常生活援助の方法を学ぶ。
3. 実践・カンファレンス等を通し、患者理解を深め、看護アプローチについて考える。
4. 実践や評価会議を通して、チーム医療の在り方や連携と協働、リハビリテーションに関わる各専門職種の役割、およびチームの中の看護師の役割について考えを深める。

テキスト

ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学②　健康危機状況／セルフケアの再獲得　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

指定図書・参考書

評価の方法

評価表に基づき、臨床指導者及び教員の評価によって行う。

授業科目	区分・教育内容		
小児看護学実習	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
秋山　祥子	前期～中期	2 単位	90 時間

授業の目的

小児の特徴を理解し、小児の健全な成長・発達を促すとともに、健康上の問題をもつ小児とその家族に対し、看護援助を実践する基礎的能力を養う。

授業の目標

1. 健康な乳幼児の発達過程と日常生活の実際がわかる。
2. 病気や入院が、小児と家族におよぼす影響を理解し、援助のあり方がわかる。
3. 患児の発達段階と病状に応じた看護過程の考え方がわかる。
4. 小児の安全を守るために必要な援助ができる。
5. 小児の権利や最大限の利益を考えて行動できる。
6. 乳児期の健康生活の保持・増進のための健診内容がわかる。
7. 小児医療チームの一員としての看護師の役割がわかり、看護学生としての責任を果たせる。
8. 看護実践を通し、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高められる。

授業概要

日常生活の中で子どもの姿を目にすることはあっても、接する機会はあまりないのが実状である。保育所の園児と関り、これまでの学習内容と子どもの実像とを結び付けてほしい。

実習病棟は社会状況の影響から入院する子どもが少なくなっている。入院した場合も、その弊害を防ごうとする考えからほとんどが短期間である。だが少数ではあるが長期入院している子どももいる。いずれの場合も入院している時間は子どもにとって「非日常」な「1 通過点」に過ぎない。それは家族も同様である。子どもと家族の「本来」の生活を踏まえ、過去・現在・未来を創造的に繋いで見通す看護の大切さを学んでほしい。

子どもへの看護技術の実践は難しい場合もある。なぜ実践が難しいのか、子どもの立場になって考えてみてほしい。

授業計画（進め方）

○保育所実習
- ならやま認定こども園またはウェルビューいずみこども園のいずれかで 4 日間行う。
- 園児との遊びや日常の世話を通し、乳幼児期の子どもの成長発達の特徴や関わり方を学ぶ。

○病院実習（4 階 A 病棟）
- 入院中の患児を受持ち、看護過程を展開する。
- 見学や実践を通し、小児看護技術を学ぶ。
- 見学や実践したことを学生間で交流し、様々な発達段階や疾患に対する看護を学ぶ。
- カンファレンスを通し、子ども観・小児看護観を養う。

○乳児健康診査の見学実習（小児科外来：水曜日・午後）
- 診察や栄養指導を見学することで、乳児健診の目的や健診における看護師の役割を学ぶ。
- 乳児の身体計測を行う。

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学～子どもと家族の示す行動への判断とケア～　日総研
浅野みどり他　発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図　医学書院
系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　専門Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院
山元恵子　写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～　インターメディカ

評価の方法

小児看護学実習評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
母性看護学実習	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子	前期～中期	2 単位	90 時間

授業の目的

1. 妊娠・分娩・褥婦・新生児期の心身の変化を理解し、健康を保持・増進していくために必要な知識・技術・態度を学習する。
2. 女性生殖器における健康問題に対する理解を深める。

授業の目標

1. 妊娠・分娩・産褥各期の生理的変化と援助内容がわかる。
2. 新生児の生理的変化がわかる。
3. 女性生殖器の疾患とその看護がわかる。
4. 対象を総合的に捉え、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。
5. 母性看護における役割を理解し、看護の専門性を追求できる。

授業概要

実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから実際的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生 2 人で 1 組の褥婦と新生児を受け持ち看護過程を展開する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。

生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。また、2 日間のカルテ学習から、女性生殖器疾患患者の看護も学ぶことができる。疾病の特徴や看護の特性を知る機会として欲しい。

授業計画(進め方)

1. 妊娠経過に伴う生理的変化やマタニティビクスを通し、妊娠期の看護と運動療法を学ぶ。
2. 産婦および胎児の健康状態をアセスメントし援助を行う。
3. 母子の看護過程を展開する。
4. 女性生殖器疾患の病態生理・治療・看護を理解する。
5. 看護実践・カンファレンスを通し、自己の看護観、母性・父性意識を発展させる。

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞﾍﾙｽと看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　　メディカ出版
系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

実習評価表に添って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
精神看護学実習	専門分野Ⅱ 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	前期～中期	2 単位	90 時間

授業の目的

精神に障害を持つ対象を理解し、健康回復と問題解決のための援助ができる能力を養う。

授業の目標

1. 精神保健看護の特殊性が理解できる。
2. 対象を総合的に把握することができる。
3. 接近の技術を身につけ、円滑な人間関係が築ける。
4. 対象の健康上の問題を解決するために看護を展開できる。
5. 看護実践を通して研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

精神機能の低下は生活能力を妨げ、社会性を低下させる原因となりうる。さらに、対処能力の低下や幻覚･妄想の支配によっておこる逸脱行動は、患者自身を危険にさらすばかりでなく、周囲への影響も大きい。そのため、精神障害者の看護は疾患の側面からのみ捉えるのではなく、社会的生活の視点で看護を展開する力が必要とされる。患者の生活の場である病棟の特徴や安全管理の特徴を理解することも重要である。患者の安全を確保しながら不充分な部分を補うことはもちろんであるが、患者の健康な部分に働きかけながら、自立に向けた援助を行うことが大切である。

精神障害の治療の中心とも言える薬物療法においては、効用と共に副作用を知ることが重要である。看護は、副作用が身体に及ぼす影響を理解したうえで、観察・日常生活援助を行わなければならない。また、レクリエーション療法、作業療法、SST などの精神科特有の治療法を学ぶ機会である。

本実習では精神障害のある対象に、1 人の尊厳ある人間として全人的に関わることを学ぶ場であり、患者―看護者関係を構築するための接近の技術が重要である。実習では言語的・非言語的コミュニケーションを用いてコミュニケーションの基本的な姿勢である傾聴や共感について深く考える機会となる。また、すべての看護に共通するコミュニケーション技術を再確認する実習としたい。

授業計画(進め方)

1. 秋田回生会病院、県立リハビリテーション･精神医療センターのいずれかで実習する。
2. 実習期間中に 1 名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。
3. プロセスレコードを記載し、接近の方法を学ぶ。
4. カンファレンスで精神保健看護の特徴について学びを深める。
5. 作業療法、レクリエーション療法等に参加し、精神科の特徴的な治療とその効果を学ぶ。
6. デイケア、生活訓練事業所などの見学を通して精神障害者の社会復帰について学ぶ。

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護②　精神障害と看護の実践　　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　精神看護①　情報発達と精神看護の基本　　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

評価表に沿って評価する。

授業科目	区分・教育内容		
看護マネジメント（1） 看護管理	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
七尾　恵美子　　奥澤　律子	前期～中期	1 単位	30 時間 （看護管理 20 時間）

授業の目的

1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割とサービス提供の仕組みが理解できる。
2. 看護を組織として機能させるための看護管理の目的や機能について理解する。

授業の目標

1. 保健医療福祉制度の中で看護専門職としての役割と機能が解る。
2. 医療・看護サービスを提供するための組織の構造や機能が解る。
3. 医療行為・看護行為の法的責任や倫理、患者の権利を擁護する方法が解る。

授業概要

我が国は、2035 年には 3 人に 1 人が高齢者になると予測されており、地域包括ケアシステムの推進に伴い、医療の主体が病院から在宅・地域へと移行し、看護師への期待、求められる能力も変化している。その中で、看護師は看護専門職としての役割・機能を正しく認識し、チーム医療において協働性や主体性、倫理性などの能力を発揮することが必要である。

授業を通じて、どんな場所で役割発揮していくのか、どんな看護を提供していきたいのか考えられる機会にしていきたい。

授業計画(進め方)

＜1～5 回目　担当：七尾＞　＜6～9 回目　担当：奥澤＞

1 回目　サービスとしての看護と看護サービス提供の場
2 回目　看護をめぐる制度と政策①：看護制度と看護政策
3 回目　看護をめぐる制度と政策②：診療報酬と看護人員配置基準・看護サービス評価
4 回目　看護倫理・患者の権利・看護アドボカシー
5 回目　看護倫理・事例から考える・人生の最終段階
6 回目　看護マネジメントの目的とシステム①：看護管理とは　看護管理のシステム
7 回目　看護マネジメントの目的とシステム②：組織、リーダーシップ
8 回目　看護マネジメントの目的とシステム③：看護管理の実際
9 回目　人的資源管理：教育システム　キャリアアップ支援
10 回目　筆記試験

テキスト

系統看護学講座　専門Ⅰ　看護学概論　医学書院

参考書・指定図書

看護管理学習テキスト　第 3 版　2020 年版　第 1 巻～第 5 巻　日本看護協会出版会

評価の方法

筆記試験

看護マネジメント 100 点満点中の 70 点

授業科目	区分・教育内容		
看護マネジメント（2） 国際看護	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	前期	1 単位	30 時間 （国際看護 10 時間）

授業の目的

異文化･多文化、世界の人々の健康と保健医療の現状について学び、看護における国際化の視点を養う。

授業の目標

1. 異文化・多文化を理解し、多様な価値観について考えることができる。
2. 世界の主要な健康問題と解決への取り組みがわかる。
3. 国際協力の在り方と看護活動の現状がわかる。

授業概要

グローバル社会といわれている今日、看護職者として、国際的な視野を持つことが求められる。講義とグループワークを通して、異文化・多文化における価値の違いを知り、グローバルな視点を育んで欲しい。その上で、世界の人々の健康と保健医療の現状について、その国の保健水準や生活水準から捉え、看護活動の場の広がりと期待される看護の役割について学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目　看護における国際化の視点
　　国際社会における看護の対象
2 回目　多様な文化と看護
3 回目　世界の健康問題と解決への取り組み（グループワーク）
4 回目　世界の健康問題と解決への取り組み（グループ発表）
5 回目　国際協力活動と看護

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践③　災害看護　メディカ出版

参考書・指定図書

近藤麻理　知って　考えて　実践する　国際看護　医学書院
守本とも子　これからの国際看護学　国境を越えた看護実践のために　ピラールプレス
丸井英二・森口育子・李節子　国際看護・国際保健

評価の方法

筆記試験及びグループワーク課題・参加態度により総合的に評価する。
看護マネジメント 100 点満点中の 30 点

授業科目	区分・教育内容		
医療安全と災害看護（1） 医療安全	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
村上　裕子　　平塚　美喜子	中期	1単位	30時間 （医療安全14時間）

授業の目的

医療の現場に潜む危険を認識し、回避する方策と患者安全上すべき事を理解し、医療従事者として患者および自らの安全を守る事の重要性を学ぶ。

授業の目標

1. 医療安全の重要性を理解する。
2. 医療の中の危険と回避のシステムを知る。
3. 医療従事者として安全を守るために“すべき事”と“してはならない”事を理解する。

授業概要

看護師は医療サービスの最終行為者となることが多く、医療サービス提供の場である病院では様々な危険が存在する。医療事故防止は、組織的な安全のためのシステム作りと看護師が危険を予知し、安全のための対策を実施することが重要である。

リスクマネジメントは、医療事故の未然防止・再発防止、苦情の防止、医療訴訟対応といった連続的な関わりに対して取り組まれるものであり、その目的は人権の尊重と医療の質の確保と質の向上である。日本の医療安全対策の動向や過去の医療事故など具体的事例をもとに参加型授業形式とする。

授業計画（進め方）

1回目　医療安全と看護の理念、看護学生の実習と安全
2回目　医療安全への取り組みと医療の質の評価
3回目　事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
4回目　チームで取り組む安全文化の醸成
5回目　看護業務に関連する事故と安全対策
6回目　医療従事者の安全を脅かすリスクと対策①
（医療機器・機材の使用に関わるリスクと対策・医薬品への暴露・労働形態、作業に伴うもの・患者、同僚および第三者による暴力）
（担当：村上）

7回目　医療従事者の安全を脅かすリスクと対策②　（担当：平塚）
（感染の危険を伴う病原体への曝露とその予防策）

テキスト

ナーシンググラフィカ　医療安全　メディカ出版
新体系統看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント　医療安全　メヂカルフレンド社

参考書・指定図書

成績評価の方法

授業への参加態度と筆記試験
医療安全と災害看護100点満点中の40点

授業科目	区分・教育内容		
医療安全と災害看護（2） 災害看護	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
高橋　さつき	中期	1単位	30時間 （災害看護16時間）

授業の目的

災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割について学ぶ。

授業の目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2. 災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。
3. 災害が人々の健康やこころ・生活に及ぼす影響を理解する。
4. 避難所運営、トリアージについて体験的に理解する。

授業概要

災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康やこころ・生活に影響することを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割について学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　災害および災害看護に関する基礎的知識
- 災害の歴史と災害・災害看護の定義
- 災害の種類と健康被害・疾病の特徴
- 災害に関する法制度、防災・減災マネジメント

2回目　災害時の支援体制と災害医療活動の特徴

3回目　災害サイクルにおける看護支援活動と配慮を必要とする人への看護

4回目　被災者と支援者の心理の理解と援助、目に見えない災害への対応と課題

5・6回目　【演習】避難所運営の実際　（ペーパーシミュレーション）

7回目　トリアージ

8回目　【演習】トリアージ（DVDの事例を用いて）

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践③　災害看護　メディカ出版

参考書・指定図書

小原真理子　酒井明子監修　災害看護　心得ておきたい基本的な知識　南山堂

小原真理子監修　演習で学ぶ災害看護　南山堂

評価の方法

医療安全と災害看護100点満点中の60点

筆記試験　50点　レポート　10点

授業科目	区分・教育内容		
看護技術の統合	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
加賀谷　園子	中期	1 単位	30 時間

授業の目的

複数事例に対して看護技術を運用し、評価する方法の基礎を学ぶ。

授業の目標

1. 複数事例の健康上の問題を査定し、看護計画が立案できる。
2. 複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドで的確に情報獲得し、優先順位の決定、実施・評価ができる。
3. 看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性がわかる。

授業概要

健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげる。臨床現場を想定した多重課題のシナリオ作成とロールプレイングを通して、ベッドサイドで的確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目	授業計画ガイダンス、事例提示	講義
2～4 回目	2 事例のアセスメント・看護計画立案	個人ワーク
5 回目	看護計画発表会	グループ学習
6 回目	講義「多重課題への対処」	講義
7～9 回目	シナリオ作成、ロールプレイング準備	プロジェクト学習(グループ学習)
10 回目	講義「記録(実践結果、評価)の仕方」 ロールプレイング準備	講義 プロジェクト学習(グループ学習)
11・12 回目	ロールプレイング発表会 記録(実践結果、評価)	プロジェクト学習(グループ学習) 個人ワーク
13・14 回目	記録指導を受け修正	個人ワーク
15 回目	振り返りレポート、授業のまとめ	講義、個人ワーク

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版

参考書・指定図書

新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全　メヂカルフレンド社
課題に準じる。

評価の方法

①看護計画：35 点　②シナリオ、ロールプレイング：42 点　③振り返りレポート、全体：23 点
教員による評価、グループによる評価、自己評価　　合計 100 点で評価する。

授業科目	区分・教育内容		
マネジメントスキルと研究	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	前期	1単位	30時間

授業の目的

看護の文献のクリティークや研究計画書の作成を通し、看護実践の向上に必要な研究力を養う。

授業の目標

1. 看護の文献を実践や研究に活用できるよう、文献クリティークの方法を学ぶ。
2. 看護に関する研究計画書を作成するプロセスを学ぶ。
3. 文献クリティークや研究計画書の立案を通して情報を吟味し、疑問や課題を解決する力を養う。

授業概要

研究論文のクリティークには、クリティカル・シンキングの技術が必要であり、クリティークを重ねることで思考に必要なその技術が磨かれる。文献のクリティークの方法を学び、実際に文献をクリティークすることで、情報を吟味し選択する力を養い、看護実践の向上や研究に活用できるようになって欲しい。また、看護を学ぶ中で、興味を持ったテーマを選択し、研究計画書を作成するプロセスを学ぶ。その中で、文献検索、文献のクリティークをもとに文献検討を行い、現在わかっていることとわかっていないことを見極め、研究を通して解決したいことを明確にして、解決するための方法を導く力を養うことができる。多くの研究から知見を得て、看護に関する思考を深めて欲しい。

授業計画(進め方)

1・3回目	文献クリティーク抄読会（1回目）・交流会（3回目）
2・4回目	研究テーマに関する文献クリティーク、文献検討（個別指導）
5・6回目	文献レビューをもとに研究目的およびリサーチクエスチョンを明確にする。 6回目に個別指導を受け、再検討する。
7～11回目	研究方法の検討 研究デザイン、対象、データ収集法、データ分析方法、期間、倫理的配慮 プレゼンに向けてスライド作成を随時行う。
12回目	全体を見直す（一貫性・妥当性・信頼性）
13回目	発表会に向けた指導・準備・確認
14・15回目	研究計画書発表会、5つのグループに分かれて交流

テキスト

参考書・指定図書

系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院
ナーシンググラフィカ　基礎看護学④　看護研究　メディカ出版
佐藤淑子　和田佳代子編　JJNSPECIAL　看護師のためのWeb検索・文献検索入門　医学書院
及川慶浩　はじめての看護研究計画書の書き方編　MCメディカ出版
大木秀一　看護研究・看護実践の質を高める　文献レビューのきほん　医歯薬出版

評価の方法

論文のクリティークレポート（10点分）、研究計画書（90点分）で評価する。

授業科目	区分・教育内容		
在宅看護論実習	統合分野 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	前期～中期	2 単位	90 時間

授業の目的

在宅で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、それらの人々が望んでいる生活や生き方ができるような看護を実践できる能力を養う。

授業の目標

1. 施設利用者の特徴を理解する事ができる。
2. 施設利用者への支援ができる。
3. 施設における看護師の役割を理解できる。
4. 在宅看護の対象である療養者とその家族を理解できる。
5. 在宅療養者と家族への援助の実際が理解できる。
6. 在宅における看護師の役割を考えることができる。
7. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。

授業概要

本実習は、介護老人保健施設等関連施設（介護老人保健施設游心苑、または介護老人福祉施設リンデンバウムいずみ)、中通訪問看護ステーション、中通ケアプランセンターで行う。

施設実習では、施設の特徴を学ぶと共に、入所者と併設の通所サービス利用者への関わりを通し、施設で生活している高齢者への支援、施設における看護師の役割について学ぶ。訪問看護ステーション、ケアプランセンター実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通し、地域で暮らす人々の実際を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。

実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。

授業計画(進め方)

1. 施設実習では、5 日間で受け持ち入所者の看護過程関連図を作成する。
2. 訪問看護、ケアプランセンター実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとの訪問記録をまとめると共に、1 ケースで看護過程を立案まで展開する。
3. 各施設の実習最終日に、施設の特徴や看護の役割についてまとめる。
4. 実習 13 日目の最終日にテーマカンファレンスを行い、看護観を深める。

テキスト

ナーシンググラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
公衆衛生がみえる 2020-2021　第 4 版　メディックメディア

参考書・指定図書

評価の方法

実習評価表に基づいて実施（施設実習 32%、訪問看護ステーション 48%、共通 20%）

授業科目	区分・教育内容		
看護の統合と実践実習	統合分野 臨地実習		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
加賀谷　園子	中期	2 単位	90 時間

授業の目的

医療・看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。

授業の目標

1. 看護管理の概要を理解できる。
2. 看護チームの一員として、援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。
3. 医療チームの一員としての看護の役割が理解できる。
4. 自己の看護観を高め、職業人としての展望が持てる。

授業概要

本実習は、これまでの専門分野・統合分野の知識・技術を統合して実務に即した実習を行い、看護管理とチームでの看護の仕事を学ぶ実習である。看護管理、チームで協働する看護、複数患者受け持ち、夜間実習といった看護活動の見学・実践を通し、臨床実践の中で必要となる基礎的な知識と技術を総合的に体験できる。患者ケアに優先順位をつけることの大変さや大切さを体験し、またスタッフ同士の情報共有の重要性を学ぶことができる。受け持ち患者中心の実習を終え、間もなく看護師として働く者として、看護のさまざまな業務場面を身近にしながら、自分自身が行動レベルで看護実践力を育む機会となる。

授業計画(進め方)

1. グループを 3 班に分け、複数患者受け持ち、看護管理、夜間実習などをローテートする。
2. 看護師長、リーダー看護師、メンバー看護師、夜勤看護師の業務を見学し役割を学ぶ。
3. 患者 2 名を同時に受け持つ。看護計画を立案し、実践の中で援助の優先順位の決定や多重課題に対応できるようにする。
4. 受け持ち患者に必要な複数のケアの実施、一人で実践可能なケアの拡大、スタッフメンバーの協力を得て実践可能なケア、今まで経験したケアの深化、経験項目を増やすなど看護技術の向上をはかる。
5. 見学・実践した看護活動や実習終了カンファレンスを通し、自己の看護観、専門職業人となる意識を養う。

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版

参考書・指定図書

新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全　メヂカルフレンド社
課題に準じる。

評価の方法

評価表に沿って評価する。